

第4学年1組 国語科学習指導案

1 単元 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」(新美 南吉作)

2 本単元の指導の立場

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、第4学年「白いぼうし」の学習においては、会話文や色・においを表す言葉に着目し、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちや性格、情景などについて、想像しながら読み進める学習をしてきている。そこで、叙述を基に、それぞれの登場人物の性格や境遇を把握し、場面や情景の移り変わりと共に変化する気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連的にとらえられるようになるこの期に、本単元を取り上げる。そして、本単元において登場人物の言動に着目し、場面の移り変わりとともに変化する気持ちを関係付けて読む学習を行い、物語の世界を豊かに感じ取ったり、感想や感動を伝え合ったりして、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付くことができるようにしたい。このことは、「読書センター」としてだけでなく、「学習情報センター」として学校図書館を活用していく子どもを育てるとともに、自分の考えを主体的に表現する子どもを育成する上からも意義深い。

(2) 教材の価値

本単元では、「ごんぎつね」や「新美南吉が書いた物語」において、叙述を基に、「登場人物の性格」「気持ちの変化」「情景」を読み取り、物語を読んで感じたことや考えたことを話し合う活動を通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことをねらいとしている。

新美南吉の作品の中に見られる美しい情景描写は、子どもたちの感受性に強く訴え、物語の世界に引き込まれることができると考える。本教材「ごんぎつね」は、ひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と「兵十」との心の交流について描かれた物語である。「わたし」が語り手となり、1～5の場面は「ごん」の視点で、6の場面は「兵十」の視点で描かれており、場面の展開に沿って人物の性格や心情の変化を想像しながら読む力を育てるのに適した作品である。また、6の場面のごんの心情をどうとらえるか、考えたことを発表し合ったり新美南吉の本を読んだ感想を話し合ったりすることで、同じ場面、同じ作品を読んでも一人一人の感じ方に違いがあることを実感することができると考えられる。

本単元での学習は、次単元「プラタナスの木」において、場面の移り変わりや出来事を、言葉や表現に気を付けて読み、心に残ったことを感想文に書く学習へと発展していく。

(3) 指導の構え

図書資料を活用し、「ごんぎつね」や「新美南吉が書いた物語」を読んで感じたことを話し合う活動は、一人一人の感じ方に違いがあることを気づかせるのに適した活動であると考えられる。

本単元の指導にあたっては、「ごんぎつね」や「新美南吉が書いた物語」において叙述を基に「登場人物の性格」「気持ちの変化」「情景」について読み取り、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせたい。そのために、まず、「つかむ」段階で、初発の感想から学習課題をもたせる。次に「つくる」段階で、「ごんぎつね」を読み、それぞれの場面でのごんや兵十の言動や気持ちの変化を話し合わせる。そして「みがく」段階で、「人物像」「気持ちの変化」「情景」の3つの観点から話し合わせ「ごん」と「兵十」の心の交流について考えさせる。最後に「生かす」段階で、読み深めてきた「新美南吉が書いた物語」を3つの観点で感想を持ち、思ったことや感じたことをグループで紹介し合う活動へと発展させ、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせる。

特に、単元を通して「ごんぎつね」の作者である新美南吉の本を読み続けたり、「生かす」段階で、「新美南吉が書いた物語」を「ごんぎつね」で学習した3つの観点から感じたことを話し合わせたりして、学校図書館の活用を図る。

3 目標

(1) 「ごんぎつね」の内容や表現に関心をもち、兵十との関わりによって変化するごんの気持ちを意欲的に追求したり、意欲的に新美南吉の本を選んだりして、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとする態度を育てる。 【関心・意欲・態度】

(2) 場面の移り変わりに注意しながら、ごんや兵十の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができるとともに、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付くことができる。 【読むこと】

(3) 登場人物の行動・様子・会話や情景を表す言葉が心情を表すことに気付くことができる。

【言語についての知識・理解】

4 単元の展開（全14時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	①	1 本単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 (1) 新美南吉のブックトークから、「ごんぎつね」読み初発の感想を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「新美南吉が書いた物語」を読んで感じたことを話し合おう。</div>	○ 新美南吉のブックトークをすることで、単元を通して「ごんぎつね」だけでなく、他の物語についても興味をもてるようにする。 ○ 初発の感想の書き方を提示し、どの子も最初の印象を書き残すことができるようにするとともに、交流の視点を明確にさせる。
	①	(2) 初発の感想から、読みのめあてをつくり、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「ごん」と「兵十」の心のきよりをたどりながら読もう。</div>	
つくる	①	2 登場人物の気持ちを想像しながら「ごんぎつね」を読み取り、心に残った言葉や文を書き留める。 (1) 前話は、どのようなきつねだったのか、物語の背景をとらえて話の大体をつかむ。 ・ひとりぼっちの小ぎつね・いたずらばかりする	○ 「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」を表にして整理し、物語の背景を正しくとらえることができるようにする。 ○ 情景描写を抜いた表現と対比させることで、いたずらをする「ごん」の行動のわけを想像できるようにする。 ○ 「心内語」や情景描写に着目させることで、いたずらを後悔する気持ちを想像できるようにする。 ○ 「も」と「は」の違いに着目させ、繰り返し「兵十」に償いをしている「ごん」の気持ちを共感できるようにする。 ○ 「ごん」の行動を表す叙述から、「兵十」に対する「ごん」の思いを読み取ることができるようになる。 ○ 会話と心内語に着目させ「ごん」と「兵十」の思いのずれをつかむことができるようにする。 ○ 「兵十」の目線で書かれていることに気付かせ、「兵十」の気持ちを考えさせる。
	①	(2) 1の場面を読み、いたずらをする「ごん」の行動のわけを考える。 ・いたずらしたくてうずうずしていたからたまたま見かけた「兵十」にいたずらをした。	
	①	(3) 2の場面を読み、いたずらしたことを後悔する「ごん」の気持ちを読み取る。 ・兵十のおっかあが死んだのは、自分のせいだと後悔する「ごん」	
	①	(4) 3の場面を読み、「兵十」につぐないをし続ける「ごん」の行動や気持ちを読み取る。 ・兵十のためにくりやまつたけを届け続ける「ごん」	
	①	(5) 4の場面を読み、「兵十」と「加助」の会話を聞きながら歩く「ごん」の気持ちを想像しながら読む。 ・兵十の事がきになって仕方ない「ごん」	
	①	(6) 5の場面を読み、「兵十」と「加助」の会話を聞いて、「ごん」の気持ちを読みとる。また引き合わないと思った「ごん」	
	①	(7) 6の場面を読み、「ごん」を撃ってしまった兵十の気持ちを想像しながら読む。 ・「ごん、おまいだったのか。いつもくりをくれたのは」	
みがく	①	3 「ごんぎつね」を学習して感じたこと、考えたことを発表する。 (1) 「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことを観点ごとにノートにまとめる。	○ 自分の考えの根拠となるところを引用させ、理由も発表できるようにする。 ○ 3つの観点から心の距離がどのようになったのかを話し合うことができるようにする。
	①	(2) 3つの観点から一番伝えたいことを、グループで話し合う。	
生かす	②	4 新美南吉が書いた本を読み、3つの観点で感じたことや考えたことをノートにまとめ、話し合う。 (1) 新美南吉が書いた本を読み、3つの観点から感じたことや考えたことをノートにまとめる。	○ 新美南吉ブックコーナーを設置しておき、紹介したい本を選べるようにする。 ○ 3つの観点から交流し、感じ方の違いに気付くことができるようにする。
	本時①	(2) グループで作品を読んで感じたこと、考えたことを話し合う。	

5 本時の主眼

- 新美南吉の本を読んで、人物像や気持ちの変化、情景などについて感じたことを話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。

6 準備

新美南吉の本（「手ぶくろを買いに」「花の木村と盗人たち」「のら犬」「巨男の話」「正坊とクロ」）
ノート 既習図

7 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の支援				
つかむ	<p>1 前時の学習内容を確認、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>新見南吉の本を読んで感じたことや考えたことを話し合おう。</p> </div>	<p>○ 自分が紹介したい本を手元に置かせておき、自分の考えの基になった叙述を確認することができるようにしておく。</p>				
つくる	<p>2 「ごんぎつね」で話し合った観点を振り返り、3つの観点を確認する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>話し合いの進め方</p> <p>1 順番に自分の意見を発表する。</p> <p>2 友達の発表を聞いて感じたことや考えたことを発表する。</p> <p>3 話し合いをした感想を書く。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>観点</p> <p>性格ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばい茂った森の中に、あなをほって住んでいました。</p> <p>気持ちの変化いたずらでうなぎを逃がしてしまったことで、「兵十」のおっかあを死なせてしまったと思ひ、つぐないをしようという気持ちになった。</p> <p>情景…空はからっと晴れていて…もずの声がキンキンひびいて…墓地には、彼岸花が、赤いきれのようにさき続いていました。</p> </td> </tr> </table>	<p>話し合いの進め方</p> <p>1 順番に自分の意見を発表する。</p> <p>2 友達の発表を聞いて感じたことや考えたことを発表する。</p> <p>3 話し合いをした感想を書く。</p>	<p>観点</p> <p>性格ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばい茂った森の中に、あなをほって住んでいました。</p> <p>気持ちの変化いたずらでうなぎを逃がしてしまったことで、「兵十」のおっかあを死なせてしまったと思ひ、つぐないをしようという気持ちになった。</p> <p>情景…空はからっと晴れていて…もずの声がキンキンひびいて…墓地には、彼岸花が、赤いきれのようにさき続いていました。</p>	<p>○ 「ごんぎつね」の学習で話し合ったことを揭示しておき、「性格」「気持ち変化」「情景」の3つの観点を話し合うという本時の話し合いの観点を確認することができるようにする。</p>		
<p>話し合いの進め方</p> <p>1 順番に自分の意見を発表する。</p> <p>2 友達の発表を聞いて感じたことや考えたことを発表する。</p> <p>3 話し合いをした感想を書く。</p>	<p>観点</p> <p>性格ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばい茂った森の中に、あなをほって住んでいました。</p> <p>気持ちの変化いたずらでうなぎを逃がしてしまったことで、「兵十」のおっかあを死なせてしまったと思ひ、つぐないをしようという気持ちになった。</p> <p>情景…空はからっと晴れていて…もずの声がキンキンひびいて…墓地には、彼岸花が、赤いきれのようにさき続いていました。</p>					
みまがく	<p>3 グループに分かれ、感じたことを話し合う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>《手ぶくろを買いに》</p> <p>性格無邪気で甘えん坊な子ぎつね</p> <p>気持ちの変化甘えん坊な子ぎつねが町に手袋を買いに行ったことで、怖いと教えられていた人間のやさしさに触れ人間に対する信頼感を持つ。</p> <p>情景真綿のように柔らかい雪の上 暗い暗い夜が風呂敷のような影を広げて…</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>《花の木村と盗人たち》</p> <p>性格初めて弟子ができて、はりきっている盗人の頭</p> <p>気持ちの変化生まれて初めて子どもや牛に信用され美しい心になった</p> <p>情景あかまみれの汚い着物を急に晴れ着に着せかえられたように奇妙な具合でした 月が鏡職人の磨いた鏡のように…</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>《のら犬》</p> <p>性格囲碁の好きなお坊さん</p> <p>気持ちの変化となり村からついてきたのら犬に対して冷たく接していたが、お寺までの帰り道のことを考えていたら犬をお寺に泊めてやろうという気持ちになった。</p> <p>情景ずるいきつねの目がやみの中に、らんらんと光っているような…</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>《巨男の話》</p> <p>性格恐ろしい魔女の息子で優しい心を持っている</p> <p>気持ちの変化魔女の息子というだけで王様は殺そうとしていたが、巨男の一生懸命な姿を見てだんだんとかわいそうになっていく。</p> <p>情景金星がたった一つうんで見える夜ふけなど、</p> </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; width: fit-content;"> <p>私は、性格について紹介しました。○○さんも性格について紹介しましたが、私が思った性格と少し違ったので、違う考え方もあるんだなあと思いました。</p> </div>	<p>《手ぶくろを買いに》</p> <p>性格無邪気で甘えん坊な子ぎつね</p> <p>気持ちの変化甘えん坊な子ぎつねが町に手袋を買いに行ったことで、怖いと教えられていた人間のやさしさに触れ人間に対する信頼感を持つ。</p> <p>情景真綿のように柔らかい雪の上 暗い暗い夜が風呂敷のような影を広げて…</p>	<p>《花の木村と盗人たち》</p> <p>性格初めて弟子ができて、はりきっている盗人の頭</p> <p>気持ちの変化生まれて初めて子どもや牛に信用され美しい心になった</p> <p>情景あかまみれの汚い着物を急に晴れ着に着せかえられたように奇妙な具合でした 月が鏡職人の磨いた鏡のように…</p>	<p>《のら犬》</p> <p>性格囲碁の好きなお坊さん</p> <p>気持ちの変化となり村からついてきたのら犬に対して冷たく接していたが、お寺までの帰り道のことを考えていたら犬をお寺に泊めてやろうという気持ちになった。</p> <p>情景ずるいきつねの目がやみの中に、らんらんと光っているような…</p>	<p>《巨男の話》</p> <p>性格恐ろしい魔女の息子で優しい心を持っている</p> <p>気持ちの変化魔女の息子というだけで王様は殺そうとしていたが、巨男の一生懸命な姿を見てだんだんとかわいそうになっていく。</p> <p>情景金星がたった一つうんで見える夜ふけなど、</p>	<p>○ 観点ごとにノートに考えをまとめさせておき、特に紹介したい場面に付箋を貼らせておき、絵本を見せながら発表させることで、自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>○ 物語の内容を把握した上での話し合いとなるように、同じ物語を読んだ子ども同士でグループを組ませるようにする。</p> <p>○ 一人一人の感じ方が違うことを大切にしている意見を賞賛し、進んで読書を楽しむ態度へとつなぐことができるようにする。</p>
<p>《手ぶくろを買いに》</p> <p>性格無邪気で甘えん坊な子ぎつね</p> <p>気持ちの変化甘えん坊な子ぎつねが町に手袋を買いに行ったことで、怖いと教えられていた人間のやさしさに触れ人間に対する信頼感を持つ。</p> <p>情景真綿のように柔らかい雪の上 暗い暗い夜が風呂敷のような影を広げて…</p>	<p>《花の木村と盗人たち》</p> <p>性格初めて弟子ができて、はりきっている盗人の頭</p> <p>気持ちの変化生まれて初めて子どもや牛に信用され美しい心になった</p> <p>情景あかまみれの汚い着物を急に晴れ着に着せかえられたように奇妙な具合でした 月が鏡職人の磨いた鏡のように…</p>					
<p>《のら犬》</p> <p>性格囲碁の好きなお坊さん</p> <p>気持ちの変化となり村からついてきたのら犬に対して冷たく接していたが、お寺までの帰り道のことを考えていたら犬をお寺に泊めてやろうという気持ちになった。</p> <p>情景ずるいきつねの目がやみの中に、らんらんと光っているような…</p>	<p>《巨男の話》</p> <p>性格恐ろしい魔女の息子で優しい心を持っている</p> <p>気持ちの変化魔女の息子というだけで王様は殺そうとしていたが、巨男の一生懸命な姿を見てだんだんとかわいそうになっていく。</p> <p>情景金星がたった一つうんで見える夜ふけなど、</p>					
生かす	<p>4 話し合いを通して、感じたことを発表する。</p> <p>○ 書いた感想を発表し、全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>同じ作品を読んでも、一人一人感じ方にちがいがある。</p> </div>	<p>※ 自分の考えと友達の考えを比べて一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。</p>				